

【件名】

居住スタイル多様化に対応するゴミ収集について

【内容】

世帯の高齢化による住宅の売却等で、古くからの住人が去り、新しい方が住居購入されるケースが増えているようです。

- ・アドレスホッピング
- ・セカンドハウス
- ・民泊

等の目的で鎌倉市に物件購入される方が増えた場合、自治会での管理から漏れる世帯が増加しないでしょうか？

また、一人暮らしや共働きで朝早く出て夜遅く戻る世帯、超高齢世帯等が旧来の住宅街に増えているように見えます。

多くの自治体で、居住者によるゴミ捨て場担当の持ち回りでクリーンステーションを管理していると思いますが、様々な居住スタイルによりゴミ担当ができない世帯が増え、そういった世帯から排出される分別不十分なゴミの対処を一部の世帯が引き受ける（有料ゴミ袋なども各担当の負担になる）ということが起こり始めているように強く感じます。

多くの方が1つの家に住み、奥さんは専業主婦かパートで…という時代ではなくなっている現在も、旧来のゴミの収集システムでは限界があるのではないのでしょうか。

戸別収集の実験がされているようですが、早い実現を望みます。

もし諸問題で戸別収集が無理でしたら、ゴミ税を新設するなどしてクリーンステーション管理を業者委託するといった仕組みを導入できないでしょうか。

ゴミ分別・ゴミ捨て場管理の問題を現代の居住スタイルに合ったストレスの軽い方法でクリアできれば、住みやすい街として強いアピールができるのではと思います。難しい問題かと思いますが、ご検討よろしくお願ひいたします。

【回答】

本市では、クリーンステーションの管理を原則として利用者である住民の皆様をお願いしています。御指摘のとおり、高齢化の進行、ライフスタイルの多様化、自治会加入率の低下やクリーンステーション管理の担い手不足などにより、今後、従来どおりのクリーンステーション管理に困難が生じる箇所が想定され、クリーンステーション管理の負担軽減は取り組むべき課題と捉えています。

クリーンステーションを取り巻く環境の変化を考えますと、戸別収集は住民の皆様の負担軽減やごみの適正な排出に有効な施策であると認識していますが、経費負担や市民理解の面で課題があることから、他市の先例事例について研究し、効率的な収集体系や収集コストの圧縮などについて整理をしながら、実現に向けた検討を進めてまいります。

現在、ごみの排出が困難な高齢者や障害者の世帯については、戸別に訪問してごみを回収する「声かけふれあい収集」を実施しております。

あわせて、「戸別収集が無理な場合には、ごみ税を新設するなどしてクリーンステーション管理を民間委託にすることについて」の御意見をいただきましたが、前述のとおり、戸別収集の実現に向けた課題整理を行いながら、当面は、ごみの排出支援が必要な世帯に対する「声かけふれあい収集」による戸別の収集を継続してまいります。

また、市では将来のごみ処理行政に寄与するため、家庭系ごみの一部について、平成 27 年度から有料化を実施しており、ごみの量に応じた手数料を徴収していることから、新たにごみ税の新設は検討しておりません。戸別収集など新たな施策を実施する場合には、有料化による手数料を財源の一部として充ててまいります。

令和 2 年（2020 年）11 月 13 日対応／報告